

■「島津製作所 創業記念資料館」の紹介

島津製作所 創業記念資料館（1975年開設，2011年4月リニューアル）

<https://www.shimadzu.co.jp/memorial-museum/>（2023年4月3日閲覧）

住所・連絡先：〒604-0921 京都市中京区木屋町二条南

TEL: 075-255-0980, FAX: 075-255-0985

入館料 大人：300円 中高生：200円 小学生以下：無料

開館時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）

休館日：水曜日、土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時に定める日

なお、予約制のため申し込み方法などは資料館ホームページで要確認。

交通アクセス：京都市営バス「京都市役所前」より徒歩約2分／京都市営地下鉄東西線「京都市役所前」2番出口より徒歩約2分／京阪電車「三条」12番出口より徒歩約7分



写真1 島津創業の地にたたずむ資料館

日本の近代科学史上で理化学機器メーカーとして知られる島津製作所は、1875年に京都市中京区木屋町二条で創業した企業である。その島津の創業記念資料館（以下、資料館）が1975年の創業100年を記念して創業の地に開設された（写真1）。ここでは、2011年4月にリニューアルオープンして現在に至る資料館の基本情報と現状を紹介してみたい（写真2）。



写真2 2011年4月のリニューアル後の資料館の内観

島津製作所は、2002年の田中耕一氏のノーベル化学賞に関連する分析計測機器やX線等による医用画像診断機器などを主力製品とするが、日本の近代科学史では、1896年10月に第三高等学校教授の村岡範為がX線写真に成功した際に高圧電源としたウイムズハースト静電高圧発生装置や、明治期の高等教育機関の理化学実験機器を提供した企業として知られる（例えば、「三高コレクション」には数多くの島津製品が占める。永平幸雄・川合葉子編『近代日本と物理実験機器』京都大学学術出版会、2001年；『明石博高と島津源蔵—京の近代科学技術の教育の先駆者たち—』国際日本文化研究センター、2021年など）。また、創業者・初代島津源蔵が京都舎密局時代のワグネルから教を乞うなど、島津製作所の創業前後には科学的に興味深いエピソードが並ぶ。こうした歴史に相応しく、資料館では、島津製作所が製造してきた教育用理化学機器、医療用装置、産業用製品、それらに関する文献など10,000点あまりを保管・展示している。さらに、現在においても全国の大学や高校からの各種資料の寄贈が行われており、その保管点数は増え続けている。

資料館の展示物は、それらを概観することによって島津製作所のこれまでの足跡を分かりやすく把握できよう工夫されている。明治期の島津は、教育用・学術用理化学機器を主力としていたが、株式会社となる大正期の島津は、時代に合わせるように、それまでの製品の開発・製造を活かしながら、材料試験機、歯車関連機器など、産業用製品の割合を高めていく。昭和期の島津は、光学器械と化学器械の製造技術を活かした化学分析機器を製品化し、加えて、明治期から製造を手がけていたエックス線装置を分析手段に活用するなどして、分析機器の開発・製造の伝統を築いていく。戦時には、精密機器企業として航空機関連機器の製造にも携わるようになり、航空機関連分野は戦後島津の主要部門の一翼を担うことになる。20世紀後半には、ライフサイエンスや環境分野に向けた製品を世に送り出していくのである。

こうした島津の歴史的展開を一目で分らせてくれるのは、リニューアル後の資料館2階に展示された、製品、製品写真、製品カタログ、各時代に因む写真をモザイク状に組み合わせたクロノロジカルなオブジェである（写真3）。そこからは、単に、各時代のニーズに応える製品をつくり出してきた島津の姿だけではなく、教育用、研究用、産業用の製品、さらに、物理分野に限定しても、音響、熱、光、電気、磁気、放射線などの幅広い分野にわたる製品をつくるなかで、異なる種類の製品を並行的に開発・製造するだけでなく、複数種の製品の技術を融合させていく島津の柔軟性を感じとることができる。つまり、ある時代のあの製品が現在のこの製品につながるといった単線的な経路ではなく、複数の時代と複数の分野の製品が時間や分野を横断して、現在の多様な製品群の開発・製造に至るといった島津製品の特徴的な複数経路を「モザイク」で示しているのである。



写真3 モザイク状のオブジェの一部

リニューアル前には、ただ並べ置かれている感の強かった、明治期の理化学機器たち（トムソン反射検流計、ガイスラー管、友田式スペクトル投影装置、ウイムズハースト静電高圧発生装置など）は、リニューアル後、「事業の基礎がため」「こだわりの片鱗」「ものづくり事始め」といったストーリー別に振り分けられ、展示されている。来館者は、各々の理化学機器を觀賞しながら、近代日本における島津の歴史をたどることができるよう工夫されている。リニューアルの前と後では、展示されている主要な歴史的製品の品目はさほど違ってはいないが、館内の展示物を観たその印象は大きく異なっている。この意味で、資料館の展示物の見せ方の工夫や技術が大きく進展していると感じる。以前に訪問したことはあるけれど近年は訪問していない方にはぜひ再訪を勧めたい。また、これまで訪問したことがない方にはいっそう訪問をお勧めしたい。

最後に、科学史的に観てもたいへん興味深い資料館の展示内容は、資料館の学芸員・館員の方々の積極的な社会・研究活動によって支えられているところが大きい。これらの方々の活動に敬意を表したい。また、資料館の保管する各種の歴史資料は、国際日本文化センター主催のオンライン企画展「明石博高と島津源蔵—京の近代科学技術教育の先駆者たち—」（※）などでも活用され、世間の注目を集めるところでもある。資料館の活動の今後のいっそうの展開に期待したい。

※ 特設ウェブページ URL https://www.nichibun.ac.jp/online/akashi_hiroakira_and_shimadzu_genzo/

特設ウェブページ公開：2021年3月31日、主催：国際日本文化研究センター／共催：神田外語大学、島津製作所 創業記念資料館。

（普及委員会委員 小長谷 大介）